

隊召連候儀被差止候間、定式の外供連不相成候事、

右之通御治定相成候條、混雜不致様可相心得旨、御沙汰候事、

御鳳輦御道筋、品川より大通り吳服町通り吳服橋御門、和田倉御門、大下馬通、西城大手御入輦、右之通御改相成候間、申達候事、

今般御東幸被爲在候處、孰れも旅中の儀に付、格別の譯を以て、一等官より五等官迄、烏帽子直垂被下置候旨、御沙汰候事、

東儀石見介、東儀將曹、今般御東幸樂御用可相勤旨、御沙汰候事、

不遷都

〔日本書紀天武十九〕五年、是年將都新城而限內田園者、不問公私、皆不耕悉荒遂不都矣、

〔扶桑略記文武〕元年丁酉歲八月一日甲子、生年十五即位、都大倭國高市郡藤原宮、

〔神皇正統記元明〕三年銅和庚戌、はじめて大倭の平城の宮に、都をさだめらる、いにしへには代ごとに都をあらため、すなはちその御門の御名によりびたてまつりき、持統天皇藤原の宮にまし、を、文武はじめてあらため給はず、此元明天皇、平城にうつりまし、よりまた七代の都になれりき、

〔扶桑略記六正〕和銅八年九月三日庚申、生年卅五即位、都大和國添土郡平城宮入進靈龜、仍即位日、改爲靈龜元年、

〔扶桑略記聖武〕養老八年元年、都大和國平城宮、

〔日本後紀平城十〕大同元年七月甲辰、詔曰、比公卿奏、日月云除、聖忌將周國家恒例、就吉之後、遷御新宮、請預營構者、此上都先帝所建、水陸所湊、道里惟均、故不憚艱勞、期以永逸、棟宇相望、規模合度、欲使後世子孫無所加益、朕忝承聖基、嗣守神器、更事興作、恐乖成規、夫漢代露臺、尚愛十家之產、大廈層構、亦非一木之枝、朕爲民父母、不欲煩勞、思據舊宮、禮亦宜之、卿等合知朕此意焉、於是百官奉表拜賀曰、亮。